緊急地震速報ISDN-Dシステム「減災スーパーくんINS-P」

既存のISDN回線を生かし電話と速報の両立を可能に

「減災スーパーくんINS-P」とは、気象庁から送られてくる緊急地震速報をISDN-Dチャンネルパケット方式によりお知らせする、世界初のシステムです。特徴は①ISDN回線なので、回線が混み合って情報の伝達が遅くなることがなく、正確に速く情報を伝えることができます。②既存のISDN回線に接続するだけで電話と地震速報の両立が可能で、そのため専用線では約3～4万円のランニングコストがかかりますが、「減災スーパーくんINS-P」は月額1,060円（通信費）の低コストで使用できます。③オプションとして、構内放送と連動させる大・中・小の接点を用意しています。

また、衛星チューナーを接続すれば衛星回線による地震情報も得ることが可能です。

お問い合わせ先

LET'S 今、求められるニーズを corporation

株式会社レッツ コーポレーション

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-18-20 板長ビル

TEL 052-201-6230 FAX 052-201-5050

http://www.lets-co.co.jp

東京営業所、浅間流通センター、土岐工場、多治見サイト工場

ISDNで緊急地震速報

レッツコーポ 新システム開発

月販500セット目標

コスト抑制 モニターに警告表示

減災君ＳＵＰＥＲの本体（右下上部）とモニター（左）

情報、通信・音響機器メーカーのレッツコーポレーション（本社名古屋市中区丸の内二ノ一八ノ二〇、後藤益巳社長、電話052・201・6230）は、既存電話システムを活用した緊急地震速報システム「減災君SUPER」を開発した。製品開発だけでなく、同社では初めてシステムとして販売・管理していく。情報伝達経路としてISDN-Dチャンネルパケット方式を採用、世界初の試みで、確実な情報の伝達が可能となる。気象庁が緊急地震速報の提供を正式にスタートする十月一日から、システムとしてのサービスを開始し、月五百セットの取り扱いを目指す。（今井隆二）

同社は八五年の設立。ファックスの自動切替器、携帯電話向けの交換機など、情報通信、映像、音響分野で製品開発を行っている。

新システムは、地震の初期微動（P波）に基づく気象庁の緊急地震速報をもとに、地震発生警告を行うもの。従来、速報システムとしては専用線、インターネットを活用することが考えられているが、専用線の場合、回線維持のコストがかかるなど、デメリットもあった。

同社のシステムでは、電話とファックスの自動切替器、携帯電話向け交換機など、情報通信、映像、音響分野で製品開発を行っている。

同社までは専用線を活用して速報を受信。この後、各導入企業に対してISDN回線を介して速報情報を配信。各企業のISDN電話回線に設置した緊急地震速報端末を通じて、モニター部に地震到達前の警告表示を行う。

電話回線という何十年にもわたって構築されてきた通信インフラを用いるという強みを持つ。一般回線では高額となるコストの場合、月九千八百円（配信料・リース料込み）を抑えつつ、確実に速報情報が伝達できるシステム」（後藤社長）として、企業や教育機関向けに、月五百セットの販売を目指していく。

月額料金は五年リース

中部経済新聞 2007/9/11 掲載

教育家庭新聞　2007/10/6 掲載

ISDN回線で実現できる「安全性」「安定性」「ローコスト」

ISDN回線使用で迅速・確実に 学校推奨モデル約8800円／月「減災スーパーくん」

株式会社レッツコーポレーション（本社 名古屋）では、気象庁から送られてくる緊急地震速報をISDN回線のDチャンネルパケットを用いた仕組み（以下ISDN回線）を使い、平均1秒以内に知らせることができる「減災スーパーくん」を提供している。

気象庁から送付される情報は専用線で自社サーバに届き、そこで各地に必要な情報が振り分けられ、各学校に届けられる。学校に設置された「減災スーパーくん」は、学校放送設備を自動的にオン、音声や警報が全教室に流れる、という仕組みだ。音声または警報は、各学校ごとにニーズにあわせて設定する。

学校推奨モデルは、リース契約の場合、月々約8800円と、ローコスト。オプションで、表示システムで視覚的に地震情報を提供することもできる。

ISDN回線を用いた仕組みは、全国的にも同社だけ。そのメリットから同社では現在、各マンション施行業者、金融機関などから問合せが多くきているという。

ISDN回線で「安定性」「安全性」「ローコスト」を実現

レッツコーポレーション

ISDNを用いることのメリットは「安定性」「安全性」「ローコスト」の3つ。

学校に既に設置済のデジタル電話回線に情報受信端末「減災スーパーくん」を接続することができるので、新たなアドレスの取得などに関わる経費が派生せず、ランニングコストが低くすむ。学校でアナログ回線を使用している場合はデジタル回線に変更する必要があるが、ランニングコストはほぼ同じですむという。

自社サーバ経由なので、情報漏えいや意図的な介入・情報操作などの危険もなく、安全性にも優れている。また、インターネット回線だと回線の混雑により遅延の可能性があるが、ISDNの場合は一斉送信の場合に起こりえる遅延の可能性はほぼゼロで、同社サーバより各学校に情報発信される時間は最速で0・4秒～数秒程度と、安定している。

現在サーバは4台設置されており、1台につき5000箇所への安定供給が可能。今後導入ユーザ拡大により、サーバは増設される。

日刊工業新聞　2007/8/31 掲載

緊急地震速報を配信

ISDN回線使い安価

【名古屋】レッツ・コーポレーション（名古屋市中区、後藤益巳社長、052・201・6230）は、安価な緊急地震速報システム「減災くん」を10月に発売する。総合デジタル通信網（ISDN）回線を使って気象庁の緊急地震速報を配信。顧客側に設置した専用表示機（写真）で情報を瞬時に自動表示する。月額利用料は約1万円を予定している。企業などを対象に月間500件の契約を目指す。

同システムはISDN回線でデータ転送などに使われる「Dチャンネル」を使用することで、専用線や仮想私設網（VPN）の回線に比べ利用料を安価に設定した。利用料はVPNの3分の1以下という。

オプションにより衛星による通信を用いた情報配信を組み合わせれば、より信頼性を高められる。専用表示機はスピーカーを備え音声でも情報発信する。内蔵の赤外線リモコンにより、近くのテレビの電源と選局を自動で操作できるため、テレビと連動して情報を得られる。